

防衛医科大学校病院医療安全監査委員会  
平成 29 年度 監査結果報告書

防衛医科大学校病院医療安全監査委員会規則に基づき監査を実施し、以下を報告する。

1. 監査の方法

防衛医科大学校病院医療安全監査委員会は、説明聴取と資料により監査を実施した。

2. 実施日

- 1) 第 1 回監査：平成 29 年 7 月 26 日（水）
- 2) 第 2 回監査：平成 29 年 10 月 4 日（水）
- 3) 第 3 回監査：平成 30 年 1 月 31 日（水）

3. 監査内容

1) 第 1 回監査

- (1) 医療安全管理責任者の配置について
- (2) 診療録等の管理に関する責任者の配置について
- (3) インシデントやアクシデントの報告状況について
- (4) 医薬品等の安全使用体制・未承認新規医療薬品等を用いた医療の提供の適否を決定する部門について
- (5) 医療安全管理委員会の業務の内容について
- (6) 高難度新規医療技術評価を用いた医療の提供の適否を決定する部門について

2) 第 2 回監査

- (1) 高難度新規医療技術評価委員会の実施状況と審議内容
- (2) 10 月 3 日に発表された他大学病院における過剰濃度製剤投与による死亡報道を受け薬剤部の視察

3) 第 3 回監査

- (1) 国立大学附属病院間「平成 29 年度医療安全・質向上のための相互チェック」及び医療法施行規則改正に伴う「平成 29 年度特定機能病院間相互のピアレビュー」について
- (2) 平成 29 年度医療法第 25 条第 3 項の規定に基づく立ち入り検査の結果について
- (3) 耳鼻咽喉科内視鏡消毒不備事案について

4. 監査の結果

1) 第 1 回監査

防衛医科大学校病院の安全管理体制を理解することができ、発生するインシデントの内容や傾向を知ることができた。特定機能病院承認要件見直し事項に対しては、院内の体制整備は概ね整備され、法令に基づく適切な体制で運用されているものと認められた。

## 2) 第2回監査

高難度新規医療技術の申請4件、承認3件の概要、承認後の実施症例についての報告から適切に運用されていることが認められた。また、他大学病院における過剰濃度製剤による死亡例と同様の薬剤は製剤していないことが確認できた。

## 3) 第3回監査

(1) 医療安全・質向上のための相互チェックの結果説明から、画像診断報告書にまつわる医療の現状や防衛医大病院における現状を確認することができた。重要な所見の判断を均質化するためのマニュアルは作成中であった。マニュアルには、放射線科医が重要所見と判断した場合に依頼医師に直接電話連絡するというシステムや電話連絡をした事実をカルテに記載するなどを盛り込んだきめ細やかな明文化を期待する。また、見落とし、誤診を防止するためにも電子カルテ更新時には、レポートの未読をチェックすることができるようなシステムの導入を優先事項として予算化を望む。

ピアレビューについては、あらゆる職種のマンパワー不足を指摘されており、特に事務作業を看護師が行うなど患者の視点から不安を抱くような箇所があり、これらを是正するための計画的なマンパワーの充実を望む。インフォームドコンセントについては、他職種の同席する機会が少なく、なぜ同席が困難か知ることができた。同席できない場合の実際の介入や記録については概ね評価するが、これらを含めた具体的な基準を設ける必要がある。

病棟常備薬の表記については「医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」（薬機法）に則った表記にしていきたい。

(2) 立ち入り検査については、ピアレビューでも指摘を受けた臨床工学技士のマンパワー不足を指摘されている。臨床工学技士は限られたマンパワーの中で、重点医療機器を中心に保守点検を確実に実施し、院内の医療機器についての研修や教育などを実施していることを確認した。医療機器に係わる安全管理の充実のためには、臨床工学技士の早急な増員を強く要望する。

(3) 耳鼻咽喉科内視鏡消毒不備事案については、患者への健康被害がなかったことが確認でき対応・対策は概ね妥当であったが、事案の発生要因や原因探求の不足が散見された。2部署で同時期に発生した事案であることという特徴を考慮し、詳細な調査・分析が必要であったと考え、今後は、より詳細な調査・分析を望む。また、適切な職種の職員が医療機器を取り扱う必要がある。

## 5. 総括

病院長をはじめとする医療安全管理責任者より、防衛医科大学校病院の医療安全管理体制や他機関による検査の結果の報告を受け確認をした。特定機能病院としての要件は概ね整備されているが、今後のマンパワーをはじめとする課題を確認したので、次回の監査委員会において確認したいと考える。安全・安心な医療の提供を目指し安全管理体制の向上と継続を希望する。